英文解釈 L01 第 7 講 分詞のまとまりを名詞につなぐ

学習目標

- 分詞とそれに続く語句の範囲を捉え、どの名詞を修飾しているかを特定できる。
- 分詞が表す動作と名詞との能動・受動関係を説明できる。
- 名詞を修飾する分詞と文の述語・補語を区別し、意味を保って自然な日本語に訳すことができる。

共通凡例

S＝主語、V＝述語、O＝目的語、C＝補語、M＝修飾語。

〈〉＝名詞のまとまり、〔〕＝形容詞のまとまり、( )＝副詞のまとまり。

名詞修飾の矢印は、分詞・分詞句から説明される名詞 head へ向かう。一方、C→O の矢印は、補語 C が目的語 O の動作や状態を説明する関係を示し、名詞修飾とは区別する。

main は主節の骨格、detail は名詞句内部の修飾関係を示す。分詞が表す動作の主体・対象と、主節の S・V・O などの役割は区別する。

1. 分詞のまとまりを名詞につなぐ

現在分詞のまとまりと名詞

英文に動詞らしい語が複数あるとき、すべてを文の述語として読んでしまうと、「誰が何をしたのか」が分からなくなる。現在分詞は動詞の-ing 形だが、名詞を説明する働きも持つ。大切なのは、-ing という形だけを見ることではなく、その動作をしているのは何かを確かめることだ。

まず、次の英文を見よう。

語注：bark「吠える」／woke：wake「(人）を起こす」の過去形

〈The barking dog〉 woke 〈two neighbors〉 (during 〈the night〉).
S V O M

S “The barking dog” / 主節 S / 主節の主語全体。内部の barking と dog の修飾関係は detail 図で示す。
V “woke” / 主節 V / woke が主節の過去時制を担う述語動詞。
O “two neighbors” / 主節 O / woke の対象となる近所の人 2 人。
M “during the night” / 時 / woke で表される出来事の時間帯。

〈The barking dog〉 woke 〈two neighbors〉 (during 〈the night〉).
現在分詞 名詞 head

phrase “barking” / 現在分詞 → phrase “dog” / 名詞 dog を前から説明する。dog が吠えるという能動の関係を表す。
phrase “dog” / 名詞 head / 主語の名詞句の中心語。barking の修飾先であり、吠える動作をする側。

意味：吠えている犬が、夜間に近所の人を 2 人起こした。

この文では、barking が直後の名詞 dog を説明している。「犬が吠える」という関係なので、dog は bark という動作をする側にある。これを**能動の関係**という。barking dog は「吠えている犬」という一つの名詞のまとまりとして読める。

一方、文全体の述語は woke である。犬について「近所の人を 2 人起こした」と述べているのは woke であり、barking ではない。現在分詞と過去形の述語を区別すると、文の骨格が見える。

©ミライコーチング

では、犬が吠えている場所を詳しく説明するとどうなるだろうか。

語注：fence「柵」

〈〈The dog〉〔barking (behind 〈the fence〉)〕〉 woke 〈two neighbors〉 (during 〈the night〉).
S　V　O　M

S “The dog barking behind the fence” / 主節 S / 現在分詞句を含む主語全体。分詞句が dog を修飾する関係は detail 図で示す。
V “woke” / 主節 V / woke が主節の過去時制を担う述語動詞。
O “two neighbors” / 主節 O / woke の対象となる近所の人 2 人。
M “during the night” / 時 / woke で表される出来事の時間帯。

〈〈The dog〉〔barking (behind 〈the fence〉)〕〉 woke 〈two neighbors〉 (during 〈the night〉).
名詞 head　現在分詞句

phrase “dog” / 名詞 head / 主語の名詞句の中心語。後続の分詞句の修飾先であり、吠える動作をする側。
phrase “barking behind the fence” / 現在分詞句 → phrase “dog” / barking behind the fence 全体が dog を後ろから説明する。dog が吠える能動の関係。ここでは behind the fence を barking に結び付け、吠える場所を示すと読む。別の文脈で場所句がほかの部分にかかる可能性まで否定するものではない。

意味：柵の向こうで吠えている犬が、夜間に近所の人を 2 人起こした。

この英文では、barking が dog の後ろに置かれ、さらに behind the fence が続いている。barking behind the fence 全体で「柵の向こうで吠えている」という意味になり、直前の名詞 dog を説明する。

ここでは、behind the fence を barking に結び付け、犬が吠えている場所を示すものとして読む。ただし、場所を表す前置詞句が常に分詞にかかるわけではない。どの動作や状態を説明するかは、英文の構造と文脈から判断する。分詞だけでなく、それに続く場所・対象などを表す語句も確認し、どこまでが名詞の説明なのかを判断する必要がある。

2 つの英文を比較すると、最初の barking dog では 1 語の現在分詞が名詞の前にあり、次の dog barking behind the fence では複数語のまとまりが名詞の後ろにあることが分かる。現在分詞 1 語は名詞の前に、分詞を中心とする長めのまとまりは名詞の後ろに置かれることが多い。ただし、これは基本的な傾向であり、語数だけで修飾位置が必ず決まるわけではない。

また、現在分詞の-ing を見ただけで進行形と判断してはいけない。進行形では be 動詞と-ing 形が述語を作るが、今回の barking はどちらも名詞 dog を修飾している。現在分詞自体が独立して文の時制を示しているわけではなく、文全体の過去という時制は woke が担っている。

日本語へ訳すときも、この関係を保つ。「犬が吠える」という能動の関係を「犬が吠えられる」と逆転させず、分詞のまとまりを名詞の説明として自然につなぐ。原文にない原因や詳しい状況を補う必要はない。

©ミライコーチング

現在分詞を読むときの着眼点

現在分詞が名詞を修飾している場合は、「どの名詞がその動作をするのか」を確かめる。分詞に続く語句も含めて修飾範囲を捉え、名詞と結び付けて読む。主節の述語は別に確認し、分詞の-ing という形だけで文全体の働きや時制を決めない。

過去分詞のまとまりと名詞

現在分詞では、名詞がその動作をする側にある能動の関係を確認した。一方、他動詞からできた過去分詞が名詞を修飾するときは、名詞がその動作を受ける側にあることが多い。英文を読む際は、分詞の形だけでなく、「その名詞が何をされるのか」という関係に注目する。

まず、次の英文を見よう。

語注：damage「～を傷つける、破損させる」／package「荷物、小包」／arrive「到着する」

〈The damaged package〉 arrived (at 〈the office〉) (before 〈noon 〔on Friday〕〉).
S V M M

S “The damaged package” / 主節 S / 主節の主語全体。内部の damaged と package の修飾関係は detail 図で示す。
V “arrived” / 主節 V / arrived が主節の過去時制を担う述語動詞。damaged 自体は過去時制を示さない。
M “at the office” / 到着場所 / arrived に結び付き、荷物の到着場所を示す。
M “before noon on Friday” / 到着時 / ここでは到着した時を金曜日の正午前と示す。

〈The damaged package〉 arrived (at 〈the office〉) (before 〈noon 〔on Friday〕〉).
過去分詞 名詞 head

phrase “damaged” / 過去分詞 → phrase “package” / 名詞 package を前から修飾する。package が damage という動作を受ける側にあるため、受動の関係を表す。
phrase “package” / 名詞 head / 主語の名詞句の中心語。damaged の修飾先であり、破損させられる側にある。破損させた主体や正確な時点は示されていない。

意味：破損した荷物が、金曜日の正午前に事務所へ届いた。

この文では、damaged が直後の名詞 package を説明している。damage は「～を破損させる」という他動詞なので、package は破損させる側ではなく、破損させられる側にある。これを**受動の関係**という。damaged package を「破損した荷物」という一つの名詞のまとまりとして捉えれば、動作の向きを取り違えずに読める。

文全体の述語は arrived である。過去分詞 damaged は荷物の状態を説明しており、「荷物が事務所へ届いた」という文の中心を担うのは arrived だ。この区別によって、名詞の説明と文全体で述べられている出来事を整理できる。

過去分詞のまとまりと名詞

次に、荷物が破損した状況を詳しく示す英文を見よう。

語注：shipping「輸送、発送」／during「〜の間に」

〈〈The package〉〔damaged (during shipping)〕〉 arrived (at 〈the office〉)
S V M

(before 〈noon 〔on Friday〕〉).
M

S “The package damaged during shipping” / 主節 S / 過去分詞句を含む主語全体。damaged during shipping が package を修飾する内部関係は detail 図で示す。
V “arrived” / 主節 V / arrived が主節の過去時制を担う述語動詞。荷物が到着したという出来事を表す。
M “at the office” / 到着場所 / arrived に結び付き、荷物の到着場所を示す。
M “before noon on Friday” / 到着時 / ここでは到着した時を金曜日の正午前と示す。輸送中の破損が起きた正確な時点とは区別する。

〈〈The package〉〔damaged (during shipping)〕〉 arrived (at 〈the office〉) (before
名詞 head 過去分詞句

〈noon 〔on Friday〕〉).

phrase “package” / 名詞 head / 主語の名詞句の中心語。後続の過去分詞句の修飾先であり、破損させられる側にある。
phrase “damaged during shipping” / 過去分詞句 → phrase “package” / damaged during shipping 全体が package を後ろから修飾する。ここでは during shipping を damaged に結び付け、輸送中に破損したという受動の関係を表す。破損させた主体や原因は特定されていない。

意味：輸送中に破損した荷物が、金曜日の正午前に事務所へ届いた。

ここでは、damaged during shipping が名詞 package の後ろから説明を加えている。damaged だけを取り出すのではなく、during shipping まで含めて「輸送中に破損した」という一つのまとまりとして読む。

特に注意したいのは、during shipping が説明している出来事だ。この語句は荷物が破損したときの状況を表しており、主節の arrived が表す到着の時を示しているわけではない。到着の時は before noon on Friday が示している。分詞の後ろに続く語句が何に結び付くかによって、和訳の意味も変わる。

最初の damaged package では過去分詞 1 語が名詞の前にあり、次の package damaged during shipping では分詞を中心とするまとまりが名詞の後ろにある。過去分詞も、1 語なら前置、複数語なら後置となることが多い。ただし、これは基本的な傾向であり、語句の長さだけで修飾位置が必ず決まるわけではない。

また、**過去分詞という名称は、それ自体が過去時制を表すという意味ではない**。damaged は荷物と破損という動作の関係を表し、主節の過去時制は arrived が担っている。過去分詞だけから、破損した正確な時点や破損させた人物を決めることもできない。

本節で扱ったのは、damage のような他動詞に由来し、名詞との受動の関係が明確な例である。過去分詞には自動詞に由来するものなど、単純な受動の関係では説明できない用法もある。したがって、すべての過去分詞を「〜される」と機械的に訳すのではなく、修飾される名詞との意味関係を確かめることが重要だ。

©ミライコーチング

過去分詞の修飾関係を読む

他動詞由来の過去分詞が名詞を修飾する場合は、まず、その名詞が動作を受ける側にあるかを確認する。後置された分詞に語句が続くときは、その語句まで含めて修飾の範囲を判断する。過去分詞の形、名詞との受動の関係、主節の時制は区別して読む。

定形述語・補語との区別

現在分詞の-ing 形や過去分詞の-ed 形を見つけても、それだけで名詞修飾と判断することはできない。同じ形でも、文の述語の一部になる場合、名詞を修飾する場合、補語として名詞の動作や状態を述べる場合がある。区別するには、まず主節の骨格を確かめ、その形が文のどこで働いているかを調べる。

次の英文を見よう。

語注：paint「～にペンキを塗る」／repair「～を修理する」

〈The workers〉 are painting 〈the repaired doors〉 (in 〈the school building〉)
S V O M

(this morning).
M

S “The workers” / 主節 S / 主語は作業員たち。修理済みの扉との関係は目的語内部の detail 図で示す。
V “are painting” / 主節 V・進行形 / are painting 全体が述語。are が現在時制を担い、painting とともに進行中の動作を表す。
O “the repaired doors” / 主節 O / ペンキを塗る対象となる扉の名詞句全体。repaired はこの名詞句の内部で doors を説明する。
M “in the school building” / 塗装場所 / ここでは are painting に結び付け、ペンキを塗っている場所を示す。扉の修理場所を示すとは限らない。
M “this morning” / 時 / ここではペンキを塗っている時を今朝と示す。

〈The workers〉 are painting 〈the repaired doors〉 (in 〈the school building〉)
過去分詞・名詞修飾 名詞 head

(this morning).
phrase “repaired” / 過去分詞・名詞修飾 → phrase “doors” / repaired は doors を前から修飾する。扉が repair という動作を受ける側にあり、修理済みの状態を表す。主節の述語や過去時制を担う語ではない。
phrase “doors” / 名詞 head / 目的語の名詞句の中心語。repaired の修飾先であり、修理される側にある。修理した主体や場所は示されていない。

意味：作業員たちは今朝、校舎の中で、修理済みの扉にペンキを塗っている。

ここでは、in the school building をペンキを塗っている場所として読む。扉が校舎内で修理されたと断定するものではない。

主語は The workers、述語は are painting である。are painting は be 動詞と現在分詞が結び付いた進行形で、作業員たちがペンキを塗っていることを表す。現在の時制を担うのは are であり、painting だけが独立して述語になっているわけではない。

一方、repaired は名詞 doors の前に置かれ、「修理された扉」という説明を加えている。repaired doors 全体は名詞のまとまりであり、repaired は述語 are painting の一部ではない。doors は repair という動作を受ける側にあるが、その受動の関係と、主節の時制とは別に判断する必要がある。

定形述語・補語との区別

過去分詞が述語の一部になる場合も確認しよう。

語注：package「荷物、小包」／deliver「～を届ける、配達する」／carry「～を運ぶ」

〈The packages〉 were delivered (by 〈a driver 〔carrying 〈a large bag〉〕〉).
S V M

S “The packages” / 主節 S / 届けられた対象である荷物を表す主語。
V “were delivered” / 主節 V・受動態 / were delivered 全体が述語。were が過去時制を担い、delivered とともに荷物が届けられたという受動の関係を表す。
M “by a driver carrying a large bag” / 配達した主体 / by で始まるまとまりが、荷物を届けた主体を示す。内部の carrying a large bag は driver を修飾しており、were delivered の一部ではない。

〈The packages〉 were delivered (by 〈a driver 〔carrying 〈a large bag〉〕〉).
名詞 head　現在分詞句・名詞修飾

phrase “driver” / 名詞 head / by に続く名詞句の中心語。carrying a large bag の修飾先であり、かばんを運ぶ動作をする側。
phrase “carrying a large bag” / 現在分詞句・名詞修飾 → phrase “driver” / carrying a large bag 全体が driver を後ろから修飾する。driver がかばんを運ぶ能動の関係を表す。carrying は主節の述語ではない。

意味：荷物は、大きなかばんを運んでいる運転手によって届けられた。

この文の主語は The packages、述語は were delivered である。were delivered は be 動詞と過去分詞による受動態で、「荷物が届けられた」という意味を表す。過去の時制を担うのは were であり、delivered という過去分詞の形だけから時制が決まるのではない。

対して、carrying a large bag は直前の名詞 driver を後ろから修飾するまとまりである。運転手が大きなかばんを運んでいるという能動の関係があり、carrying だけでなく a large bag まで含めて名詞を説明している。were delivered と carrying a large bag は、同じ文にあっても役割が異なる。

では、分詞が名詞の動作や状態を表しながら、名詞修飾ではなく補語として働く場合を見よう。

語注：keep＋O＋C「O を C の状態に保つ」／equipment room「用具室」／lock「～に鍵をかける」

〈The coach〉 kept 〈the players〉 running and 〈the equipment room〉 locked (during practice).
S V O C O C M

S “The coach” / 主節 S / 選手たちと用具室の状態を保った主体であるコーチ。
V “kept” / 主節 V / kept が過去時制を担う述語動詞。後ろには and で結ばれた 2 組の目的語と補語が続く。
O “the players” / 第 1 組 O / 第 1 組の目的語。running が表す動作をする側である選手たち。
C “running” / 第 1 組 C → O “the players” / the players の動作を述べる補語。選手たちが走るという能動の関係を表し、kept とともに走り続ける状態を示す。名詞を後ろから修飾する分詞句ではない。
O “the equipment room” / 第 2 組 O / 第 2 組の目的語。locked が表す施錠状態に保たれる用具室。
C “locked” / 第 2 組 C → O “the equipment room” / the equipment room の状態を述べる補語。用具室が鍵をかけられた状態にあることを表す。名詞を後ろから修飾する分詞句ではなく、主節の過去時制も担わない。
M “during practice” / 時 / ここでは練習中という時間を示し、kept による状態の維持に結び付ける。2 組の目的語と補語を一組にまとめるものではない。

意味：コーチは練習中、選手たちを走り続けさせ、用具室を施錠した状態に保った。

主語は The coach、主節の述語は kept である。この文では、kept に続く 2 組の目的語と補語を確認する。

最初の組では、the players が目的語、running が補語である。「選手たちが走る」という能動の関係を表し、kept the players running で「選手たちを走り続けさせた」という意味になる。running は選手たちの動作を述べる補語であり、the players を後ろから修飾する語句として扱うのではない。

次の組では、the equipment room が目的語、locked が補語である。用具室は鍵をかけられる側にあり、locked は用具室が施錠された状態にあることを述べている。kept the equipment room locked で「用具室を施錠した状態に保った」と読む。locked は名詞の直後にあるが、位置だけを根拠に後置修飾とは判断できない。

ここで重要なのは、**名詞と分詞の意味上の関係が同じでも、文中での働きまで同じとは限らない**ということだ。名詞を説明する分詞は名詞句の内部で働き、補語は主語や目的語について動作・状態を述べる。一方、進行形や受動態では分詞が be 動詞などと結び付き、述語の一部になる。

したがって、英文を読む際は、まず時制を担う定形動詞を含む述語を捉える。そのうえで分詞が名詞句の内部にあるのか、動詞に続く補語なのかを判断し、最後に名詞との能動・受動関係を確かめる。この順序なら、形の似た分詞を取り違えずに解釈できる。

分詞の形と文中の役割を区別する

-ing 形や-ed 形だけで文中の働きを決めない。進行形・受動態では分詞が述語の一部となり、名詞修飾では名詞句の内部で説明を加え、補語では主語や目的語の動作・状態を述べる。主節の述語、分詞のまとまりとその働き、名詞との意味関係を分けて確認する。

©ミライコーチング

感情を起こす側と経験する側

interesting と interested、exciting と excited のように、-ing 形と-ed 形で意味が異なる感情を表す語がある。これらを「人なら-ed、物なら-ing」と覚えていないだろうか。しかし、この区別では人物が-ing 形で説明される場合を正しく読めない。

大切なのは、名詞が人か物かではなく、**感情を起こす側なのか、その感情を経験する側なのか**という関係である。まず、興味を感じている人を表す英文から確認しよう。

語注：visitor「来館者」／study「〜を詳しく調べる、じっくり見る」／gallery「展示室」

〈The interested visitors〉 studied 〈several paintings〉 (in 〈the new gallery〉) (for 〈a long time〉).
S　V　O　M　M

S “The interested visitors” / 主節 S / 主語は来館者たちを表す名詞句全体。interested と visitors の修飾関係は detail 図で示す。
V “studied” / 主節 V / studied が主節の過去時制を担う述語動詞。来館者たちが絵画をじっくり見たことを表す。
O “several paintings” / 主節 O / studied の対象となる複数の絵画を表す名詞句。
M “in the new gallery” / 場所 / ここでは studied に結び付け、来館者たちが絵画を見た場所を示す。
M “for a long time” / 継続時間 / for a long time は、絵画をじっくり見た時間の長さを示す。

〈The interested visitors〉 studied 〈several paintings〉 (in 〈the new gallery〉) (for 〈a long time〉).
感情形容詞　名詞 head

phrase “interested” / 感情形容詞 → phrase “visitors” / interested は名詞 visitors を前から修飾する。visitors が興味という感情を経験する側にあることを表す。具体的に何に興味を持ったかは、この語だけでは確定しない。過去時制や具体的な受動動作を表すものではない。
phrase “visitors” / 名詞 head / 主語の名詞句の中心語。interested の修飾先であり、興味を経験する側の来館者たちを表す。

意味：興味を持った来館者たちは、新しい展示室で何枚かの絵画を長い時間じっくり見た。

この文の interested は、名詞 visitors を前から修飾している。visitors は興味という感情を経験する側なので、interested visitors は「興味を持った来館者たち」となる。

ここで、interested を「興味を持たされた」と機械的に訳す必要はない。interested は、興味を感じている状態を表す形容詞として働いている。また、来館者が何に興味を持ったのかは、文の内容から推測できても、interested という語だけで対象が指定されているわけではない。

©ミライコーチング

解説

では、同じ interest に由来する interesting が人物を説明する場合を見よう。

語注：guide「案内人」／explain「～を説明する」／history「歴史」

〈The interesting guide〉 explained 〈the history 〔of 〈the building〉〕〉 (to visitors) (during 〈the tour〉).
S　V　O　M　M

S “The interesting guide” / 主節 S / 主語は案内人を表す名詞句全体。interesting と guide の修飾関係は detail 図で示す。
V “explained” / 主節 V / explained が主節の過去時制を担う述語動詞。案内人が建物の歴史を説明したことを表す。
O “the history of the building” / 主節 O / 説明した内容は建物の歴史。of the building は名詞 history の内容を限定する。
M “to visitors” / 説明の相手 / to visitors は説明を受ける相手を示す。案内人の説明によって来館者が実際に興味を感じたかどうかまでは表していない。
M “during the tour” / 時 / during the tour は説明が行われた時間・場面を示す。

〈The interesting guide〉 explained 〈the history 〔of 〈the building〉〕〉 (to visitors) (during 〈the tour〉).
感情形容詞　名詞 head

phrase “interesting” / 感情形容詞 → phrase “guide” / interesting は名詞 guide を前から修飾する。guide は人物だが、興味を経験する側ではなく、人の興味を引く性質を持つ側として説明されている。案内人自身の感情や、特定の来館者が実際に興味を感じたことを示すものではない。進行形の述語でもない。
phrase “guide” / 名詞 head / 主語の名詞句の中心語。interesting の修飾先であり、興味を起こす性質を持つ案内人を表す。

意味：興味を引く案内人が、見学中に来館者たちへその建物の歴史を説明した。

この英文では、interesting が名詞 guide を前から修飾している。guide は人物だが、interesting は「興味を持っている」という意味ではない。「人の興味を引く」という性質を表すため、interesting guide は「興味を引く案内人」と読む。

ここが「人なら-ed」という覚え方では説明できない部分だ。案内人自身が興味を感じているかどうかではなく、その人物がほかの人の興味を引く側にあることを表している。ただし、この英文だけで、特定の来館者が実際に興味を感じたとまでは断定できない。

2 つの英文を比べると、interested visitors では visitors が感情を経験する側にあり、interesting guide では guide が感情を起こす側にある。どちらも人物を表す名詞だが、名詞と感情の関係が異なるため、使われる形も異なる。

また、interesting の-ing 形は進行形を意味せず、interested の-ed 形もそれだけで過去時制や具体的な受動動作を表すわけではない。どちらも、この例では名詞を説明する形容詞として働いている。

英文解釈では、まず分詞形容詞がどの名詞を修飾しているかを確かめる。そのうえで、その名詞が感情を起こす側か、経験する側かを語の意味から判断する。形だけを日本語に置き換えるのではなく、名詞との意味関係を保つことが自然な和訳につながる。

感情を表す分詞形容詞の読み方

感情を表す-ing 形は、その感情を引き起こす側の性質を表し、-ed 形は、その感情を経験する側の状態を表すことが多い。人か物かで機械的に決めず、修飾される名詞と感情との関係から判断する。過去分詞形の感情形容詞を、すべて具体的な受動動作として訳す必要はない。

1

語注：museum guide「博物館の案内係」／carry「～を持っている、持ち運ぶ」／welcome「～を出迎える、歓迎する」／entrance「入口」

The museum guide carrying a small map welcomed the visitors at the main entrance.

a. carrying で始まる分詞句の範囲と、その修飾先の名詞を示せ。また、その名詞と分詞が表す動作との関係が能動・受動のどちらであるかを答えよ。

b. 英文全体を自然な日本語に訳せ。

例題 1 の解説

a の解答

- 分詞句の範囲：carrying a small map
- 修飾先の名詞：guide
- 名詞との関係：能動の関係。案内係が小さな地図を持っている。

〈〈The museum guide〉〔carrying〈a small map〉〕〉 welcomed 〈the visitors〉 (at 〈the main entrance〉).
S　V　O　M

S “The museum guide carrying a small map” / 主節 S / 主語は博物館の案内係を表す名詞句全体。carrying a small map と guide の修飾関係は detail 図で示す。
V “welcomed” / 主節 V / welcomed が主節の過去時制を担う述語動詞。案内係が来館者たちを出迎えたことを表す。
O “the visitors” / 主節 O / welcomed の対象となる来館者たちを表す名詞句。
M “at the main entrance” / 出迎えた場所 / at the main entrance は welcomed に結び付き、出迎えた場所を示す。

〈〈The museum guide〉〔carrying〈a small map〉〕〉 welcomed 〈the visitors〉 (at 〈the main entrance〉).
名詞 head　現在分詞句

phrase “guide” / 名詞 head / 主語の名詞句の中心語。carrying a small map の修飾先であり、地図を持っている主体。
phrase “carrying a small map” / 現在分詞句 → phrase “guide” / carrying a small map 全体が guide を後ろから修飾する。guide が carry という動作をする側にあるため、能動の関係を表す。a small map は carry の対象であり、carrying は主節の述語ではない。

まず、文全体の骨格を確認する。主語は The museum guide carrying a small map、述語動詞は welcomed、目的語は the visitors である。文の中心は「博物館の案内係が来館者たちを出迎えた」という内容になる。

主語の内部に注目すると、guide の直後に carrying がある。carry は「〜を運ぶ、持っている」という意味を持ち、後ろの a small map がその対象になっている。そのため、carrying だけで区切らず、carrying a small map 全体を一つの分詞句として捉える。

この分詞句は名詞 guide を後ろから修飾している。「案内係が地図を持っている」という関係なので、guide は carry という動作をする側にある。したがって、現在分詞による能動の修飾関係と判断できる。

一方、主節の過去時制を担うのは welcomed である。carrying をもう一つの独立した述語として読むのではなく、案内係がどのような人物かを説明する部分として扱う。文末の at the main entrance は、来館者たちを出迎えた場所を表している。

b の解答

直訳

小さな地図を持っている博物館の案内係は、正面入口で来館者たちを歓迎した。

満点の訳

小さな地図を持った博物館の案内係が、正面入口で来館者たちを出迎えた。

直訳では、carrying a small map を「小さな地図を持っている」として、分詞句と名詞の関係を明確に表している。満点の訳では「小さな地図を持った案内係」と自然につなぎ、英文全体を読みやすく整えている。

どちらも、地図を持っているのが案内係であること、案内係が来館者たちを出迎えたこと、出迎えた場所が正面入口であることを保持している。

「歓迎した」「出迎えた」などの自然な言い換えも認められる。ただし、地図を持っている人物を来館者たちに変えたり、原文にない出迎えの理由や具体的な時点を加えたりしてはいけない。

現在分詞を含む英文では、主節の述語を確定してから、分詞に続く語句の範囲と修飾先を確認する。そのうえで「誰がその動作をするのか」を確かめれば、名詞の説明を正しく日本語につなげられる。

2

語注：exhibition「展示会」／admire「〜を鑑賞する」／photography club「写真部」／take a photograph「写真を撮る」

At the school exhibition, visitors admired three photographs taken by the photography club last summer.

a. taken で始まる分詞句の範囲と、その修飾先の名詞を示せ。また、その名詞と分詞が表す動作との関係が能動・受動のどちらであるかを答えよ。

b. 英文全体を自然な日本語に訳せ。

例題 2 の解説

a の解答

この解説では、last summer を写真の撮影時として読む。以下の分詞句・目的語の範囲と二つの訳は、この読みを前提とする。

- 分詞句の範囲：taken by the photography club last summer
- 修飾先の名詞：photographs

• 名詞との関係：受動の関係。3 枚の写真が、昨年の夏に写真部によって撮影された。

まず、文全体の骨格を確認する。主語は visitors、述語動詞は admired、目的語は three photographs taken by the photography club last summer である。文の中心は「来場者たちが 3 枚の写真を鑑賞した」という内容になる。

目的語の内部を見ると、名詞 photographs の直後に taken が続いている。take a photograph は「写真を撮る」という意味なので、photographs は撮影する側ではなく、撮影される側にある。この意味関係から、taken は photographs を後ろから修飾する過去分詞と判断できる。

さらに、taken の後ろには by the photography club と last summer が続いている。前者は撮影した主体を、後者は撮影した時を示している。したがって、taken だけで区切るのではなく、taken by the photography club last summer 全体を一つの分詞句として捉える。

一方、主節の過去時制を担うのは admired である。taken も過去分詞の形だが、文全体の述語ではない。ここでは last summer を写真が撮影された時として読み、taken by the photography club last summer 全体を分詞句として捉える。文頭の At the school exhibition は、鑑賞した場所・場面を示している。ただし、last summer を主節の admired に結び付け、鑑賞した時を表すと読むことも、英文の形だけでは排除できない。

(At 〈the school exhibition〉), visitors admired
M　S　V

〈〈three photographs〉 〔taken (by 〈the photography club〉) (last summer)〕〉.
O

M “At the school exhibition” / 鑑賞した場所・場面 / At the school exhibition は、来場者たちが写真を鑑賞した場所・場面を示す。
S “visitors” / 主節 S / 写真を鑑賞した主体である来場者たち。
V “admired” / 主節 V / admired が主節の過去時制を担う述語動詞。写真を鑑賞したことを表す。
O “three photographs taken by the photography club last summer” / 主節 O / ここでは last summer を撮影時として taken に結び付ける主解を採用する。目的語は、写真部が昨年の夏に撮影した 3 枚の写真を表す名詞句全体。内部の修飾関係は detail 図で示す。

(At 〈the school exhibition〉), visitors admired 〈〈three photographs〉
名詞 head

〔taken (by 〈the photography club〉) (last summer)〕〉.
過去分詞句

phrase “photographs” / 名詞 head / 目的語の名詞句の中心語。3 枚の写真を表す。taken で始まる分詞句の修飾先であり、撮影される側にある。
phrase “taken by the photography club last summer” / 過去分詞句 → phrase “photographs” / 主解では taken by the photography club last summer 全体が photographs を後ろから修飾する。写真が撮影される側にあるため受動の関係を表す。by the photography club は撮影した主体、last summer は撮影した時を示す。別読みとして last summer を admired に結び付けることも可能で、その場合の a の分詞句の範囲は taken by the photography club までとなる。別読みの範囲は本図の主解には混在させない。

b の解答

直訳

学校の展示会で、来場者たちは昨年の夏に写真部によって撮影された 3 枚の写真を鑑賞した。

満点の訳

学校の展示会で、来場者たちは写真部が昨夏撮影した 3 枚の写真を鑑賞した。

直訳では、taken by the photography club を「写真部によって撮影された」と受動の形で表し、写真が撮影される側にあることを明確にしている。

満点の訳では、「写真部が撮影した」と能動的な日本語表現に整えている。英文の過去分詞が表す受動の関係を理解したうえで、自然な日本語に言い換えたものであり、意味は変わっていない。

どちらも、鑑賞したのは来場者たちであること、鑑賞された写真は 3 枚であること、撮影したのは写真部であること、撮影した時は昨年の夏であることを保持している。

「鑑賞した」「感心して眺めた」など、admired の鑑賞・感心の意味を保つ自然な別訳は認められる。一方、単に「見た」とするだけでは、その意味合いが弱くなるため、無条件には認められない。

また、last summer を admired に結び付け、昨年の夏を鑑賞した時と読むことも可能である。その場合、a の分詞句の範囲は taken by the photography club までとなる。b も「昨年の夏、学校の展示会で、来場者たちは写真部が撮影した 3 枚の写真を鑑賞した」のように、昨年の夏を鑑賞した時として訳す。分詞句の範囲と全文和訳が一貫していれば、この別読みも認められる。

いずれの読みでも、写真を撮影した主体を来場者たちに変えたり、原文にない撮影の理由を付け加えたりしてはいけない。

過去分詞による名詞修飾では、まず主節の骨格を確かめ、分詞に続く語句を含めて修飾範囲を捉える。そのうえで、名詞が動作を受ける側にあることを確認すれば、受動の関係を保ちながら自然な日本語に訳せる。

演習問題

1

語注：chef「料理人」／temperature「温度」／oven「オーブン」

The chef preparing vegetable soup checked the temperature of the oven before dinner.

a. preparing で始まる分詞句の範囲と、その修飾先の名詞を示せ。また、その名詞と分詞が表す動作との関係が能動・受動のどちらであるかを答えよ。

b. 英文全体を自然な日本語に訳せ。

2

語注：technician「技術者」／repair「〜を修理する」／produce「〜を生み出す」／blurry「ぼやけた」／shift「勤務時間帯」

During the morning shift, the technician repaired the printer producing blurry images.

a. producing で始まる分詞句の範囲と、その修飾先の名詞を示せ。また、その名詞と分詞が表す動作との関係が能動・受動のどちらであるかを答えよ。

b. 英文全体を自然な日本語に訳せ。

3

語注：volunteer「ボランティア」／plant「〜を植える」／donate「〜を寄贈する」／nursery「苗木園」

On Saturday, the volunteers planted twelve trees donated by a local nursery.

a. donated で始まる分詞句の範囲と、その修飾先の名詞を示せ。また、その名詞と分詞が表す動作との関係が能動・受動のどちらであるかを答えよ。

b. 英文全体を自然な日本語に訳せ。

4

語注：librarian「図書館員」／sort「〜を分類する、仕分ける」／return「〜を返却する」

On Tuesday, the librarian sorted eight books returned by students into separate boxes.

a. returned で始まる分詞句の範囲と、その修飾先の名詞を示せ。また、その名詞と分詞が表す動作との関係が能動・受動のどちらであるかを答えよ。

b. 英文全体を自然な日本語に訳せ。

5

語注：editor「編集者」／review「〜を確認する、検討する」／photograph「写真」／show「〜を写している、示している」／railway station「鉄道駅」

The editor is reviewing photographs showing the old railway station at the office.

a. showing で始まる分詞句の範囲と、その修飾先の名詞を示せ。また、その名詞と分詞が表す動作との関係が能動・受動のどちらであるかを答えよ。

b. 英文全体を自然な日本語に訳せ。

6

語注：caretaker「管理人」／water「〜に水をやる」／keep＋O＋C「O を C の状態に保つ」／gate「門」／throughout「〜の間ずっと」

The caretaker watering the garden kept the back gate locked throughout the afternoon.

a. watering で始まる分詞句の範囲と、その修飾先の名詞を示せ。また、その名詞と分詞が表す動作との関係が能動・受動のどちらであるかを答えよ。

b. 英文全体を自然な日本語に訳せ。

©ミライコーチング

演習問題の解答・解説

1

a の解答

- 分詞句の範囲：preparing vegetable soup
- 修飾先の名詞：chef
- 名詞との関係：能動の関係。料理人が野菜スープを用意している。

まず、文全体の骨格を確認する。主語は The chef preparing vegetable soup、述語動詞は checked、目的語は the temperature of the oven である。文の中心は「料理人がオーブンの温度を確認した」という内容になる。

主語の内部に注目すると、名詞 chef の直後に preparing が続いている。prepare は「〜を用意する」という意味の動詞であり、vegetable soup がその対象になっている。そのため、preparing だけで区切らず、preparing vegetable soup 全体を一つの分詞句として捉える。

この分詞句は chef を後ろから修飾している。「料理人が野菜スープを用意する」という関係なので、chef は prepare という動作をする側にある。したがって、現在分詞による能動の修飾関係と判断できる。

一方、主節の過去時制を担うのは checked である。preparing を独立した述語として扱うのではなく、料理人を説明する部分として読む。また、before dinner は、ここでは主節の「温度を確認した」という出来事の時を表すものとして読む。分詞句の範囲に含める必要はない。

〈〈The chef〉〔preparing〈vegetable soup〉〕〉 checked
S V

〈〈the temperature〉〔of〈the oven〉〕〉 (before dinner).
O M

S “The chef preparing vegetable soup” / 主節 S / 主語は料理人を中心とする名詞句全体。preparing vegetable soup による内部の修飾関係は detail 図で示す。
V “checked” / 主節 V / checked が主節の過去時制を担う述語動詞。料理人が温度を確認したことを表す。
O “the temperature of the oven” / 主節 O / 確認した対象はオーブンの温度。of the oven は temperature を説明する。
M “before dinner” / 確認した時 / ここでは before dinner を checked に結び付け、温度を確認した時が夕食前であると読む。別の文脈での係り方を一律に否定するものではない。

〈〈The chef〉〔preparing〈vegetable soup〉〕〉 checked 〈〈the temperature〉〔of 〈the oven〉〕〉 (before dinner).
名詞 head　現在分詞句

phrase “chef” / 名詞 head / 主語の名詞句の中心語。preparing vegetable soup の修飾先であり、野菜スープを用意する動作の主体。
phrase “preparing vegetable soup” / 現在分詞句 → phrase “chef” / preparing vegetable soup 全体が chef を後ろから修飾する。chef が prepare という動作をする側にあるため、能動の関係を表す。vegetable soup は prepare の対象であり、preparing は主節の述語ではない。

b の解答

直訳

野菜スープを用意している料理人は、夕食前にオーブンの温度を確認した。

満点の訳

野菜スープを用意していた料理人が、夕食前にオーブンの温度を確かめた。

直訳では、preparing vegetable soup を「野菜スープを用意している」として、現在分詞と名詞の関係を明確に表している。

満点の訳では、主節の過去時制に合わせて「用意していた」と表現し、自然な日本語に整えている。ただし、これは preparing 自体が過去時制を表すという意味ではない。

どちらも、野菜スープを用意するのが料理人であること、確認した対象がオーブンの温度であること、確認した時が夕食前であることを保持している。

「確認した」「確かめた」などの自然な言い換えも認められる。ただし、checked を「温度計で測定した」と訳すと、原文にない具体的な確認方法を加えることになるため避ける。また、before dinner を温度確認の時として読むのが自然だが、文脈が限られる以上、別の係り方を無条件に排除する必要はない。

この英文では、主節の checked を先に捉え、主語の内部にある preparing vegetable soup を名詞 chef へ結び付けることで、文全体の意味を正確に組み立てられる。

©ミライコーチング

2

a の解答

- 分詞句の範囲：producing blurry images
- 修飾先の名詞：printer
- 名詞との関係：能動の関係。プリンターがぼやけた画像を出力している。

まず、文全体の骨格を確認する。主語は the technician、述語動詞は repaired、目的語は the printer producing blurry images である。文の中心は「技術者がプリンターを修理した」という内容になる。

目的語の内部を見ると、名詞 printer の直後に producing が続いている。produce は「〜を生み出す」という意味を持ち、ここでは blurry images がその対象である。したがって、producing blurry images 全体を一つの分詞句として捉える。

この分詞句は printer を後ろから修飾している。「プリンターがぼやけた画像を出力する」という関係なので、printer は produce という動作をする側にある。したがって、現在分詞による能動の修飾関係と判断できる。

ここで重要なのは、**無生物の名詞でも能動の関係が成立する**という点だ。能動とは必ず人間が意志を持って行動することではない。printer が画像を出力する側にあるため、この文では能動の関係になる。

主節の過去時制を担うのは repaired であり、producing は文全体の述語ではない。また、文頭の During the morning shift は、技術者が修理した時を示している。修飾される名詞と主節の述語を分ければ、それぞれの語句が説明する内容を整理できる。

(During 〈the morning shift〉) (M), 〈the technician〉 (S) repaired (V)

〈〈the printer〉 〔producing 〈blurry images〉〕〉 (O).

M “During the morning shift” / 修理した時 / During the morning shift は repaired に結び付き、修理が午前の勤務時間帯に行われたことを示す。
S “the technician” / 主節 S / 主語は修理を行った技術者。
V “repaired” / 主節 V / repaired が主節の過去時制を担う述語動詞。技術者がプリンターを修理したことを表す。
O “the printer producing blurry images” / 主節 O / 修理の対象となるプリンターの名詞句全体。producing blurry images と printer の修飾関係は detail 図で示す。修理後も画像のぼやけが続いたことは示されていない。

(During 〈the morning shift〉), 〈the technician〉 repaired 〈〈the printer〉 (名詞 head)

〔producing 〈blurry images〉〕〉 (現在分詞句).

phrase “printer” / 名詞 head / 主節の目的語に含まれる名詞句の中心語。producing blurry images の修飾先であり、画像を出力する主体。無生物でも能動の関係は成立する。
phrase “producing blurry images” / 現在分詞句 → phrase “printer” / producing blurry images 全体が printer を後ろから修飾する。printer が produce という動作・働きをする側にあるため、能動の関係を表す。blurry images は出力される対象であり、producing は主節の述語ではない。修理後の出力状態までは表していない。

b の解答 直訳 午前の勤務時間帯に、技術者はぼやけた画像を出力しているプリンターを修理した。

満点の訳 午前の勤務中、技術者は画像がぼやけて出るプリンターを修理した。

直訳では、producing blurry images を「ぼやけた画像を出力している」として、プリンターが画像を生み出す側にあることを明確にしている。

満点の訳では、「画像がぼやけて出るプリンター」と自然な日本語に整えている。英文の能動の関係を理解したうえで、出力される画像の状態を分かりやすく表現したものである。

どちらも、修理したのが技術者であること、修理の対象がプリンターであること、そのプリンターがぼやけた画像を出力していること、修理した時が午前の勤務時間帯であることを保持している。

「ぼやけた画像を出すプリンター」「不鮮明な画像を出力するプリンター」なども、原文の意味を保っていれば自然な別訳として認められる。ただし、修理後も画像がぼやけたままだったとは書かれていないため、そのような経過を付け加えてはいけない。

この英文では、主節の repaired を捉え、目的語の内部にある producing blurry images を printer へ結び付ける。名詞が人か物かに頼らず、何がその動作をするのかを確認することが、現在分詞の修飾関係を正確に読む根拠になる。

3

a の解答

- 分詞句の範囲：donated by a local nursery
- 修飾先の名詞：trees
- 名詞との関係：受動の関係。12 本の木が、地元の苗木園によって寄贈された。

まず、文全体の骨格を確認する。主語は the volunteers、述語動詞は planted、目的語は twelve trees donated by a local nursery である。文の中心は「ボランティアたちが 12 本の木を植えた」という内容になる。

目的語の内部に注目すると、名詞 trees の直後に donated が続いている。donate は「〜を寄贈する」という他動詞なので、trees は寄贈する側ではなく、寄贈される側にある。この意味関係から、donated は trees を後ろから修飾する過去分詞と判断できる。

さらに、donated の後ろには by a local nursery が続いている。これは木を寄贈した主体を表す語句であり、donated と一緒に trees を説明している。したがって、donated だけで区切らず、donated by a local nursery 全体を一つの分詞句として捉える。

一方、主節の過去時制を担うのは planted である。donated は名詞を修飾する過去分詞であり、独立した述語ではない。また、文頭の On Saturday は木を植えた時を表している。寄贈した日まで土曜日だったと判断する根拠はない。

(On Saturday) , 〈the volunteers〉 planted
M　S　V

〈〈twelve trees〉 〔donated (by 〈a local nursery〉)〕〉.
O

M “On Saturday” / 植樹した時 / On Saturday は主節の planted に結び付き、木を植えた日が土曜日であることを示す。木が寄贈された日まで土曜日だったとは断定できない。
S “the volunteers” / 主節 S / 主語は木を植えたボランティアたち。
V “planted” / 主節 V / planted が主節の過去時制を担う述語動詞。ボランティアたちが木を植えたことを表す。
O “twelve trees donated by a local nursery” / 主節 O / 植えられた 12 本の木を表す名詞句全体。donated by a local nursery と trees の内部の修飾関係は detail 図で示す。

(On Saturday), 〈the volunteers〉 planted 〈〈twelve trees〉
名詞 head

〔donated (by 〈a local nursery〉)〕〉.
過去分詞句

phrase “trees” / 名詞 head / 主節の目的語に含まれる名詞句の中心語。12 本の木を表す。donated by a local nursery の修飾先であり、寄贈される側にある。
phrase “donated by a local nursery” / 過去分詞句 → phrase “trees” / donated by a local nursery 全体が trees を後ろから修飾する。木は donate という動作を受ける側にあるため、受動の関係を表す。by a local nursery は寄贈した主体を示す。寄贈した日や理由は示されていない。

b の解答

直訳

土曜日に、ボランティアたちは地元の苗木園によって寄贈された 12 本の木を植えた。

満点の訳

土曜日、ボランティアたちは地元の苗木園が寄贈した 12 本の木を植えた。

直訳では、donated by a local nursery を「地元の苗木園によって寄贈された」と表し、木が寄贈される側にあることを明確にしている。

満点の訳では「地元の苗木園が寄贈した」と能動的な日本語表現に整えている。英文の受動の関係を理解したうえで日本語の語順を自然にしたものであり、意味は変わっていない。

どちらも、木を植えたのがボランティアたちであること、植えた木が 12 本であること、その木の寄贈元が地元の苗木園であること、植えた日が土曜日であることを保持している。

「寄贈した」「提供した」なども、寄贈という意味を適切に保っていれば自然な別訳として認められる。ただし、苗木園が木を植えたと読み替えたり、寄贈が土曜日に行われたと断定したりしてはいけない。

この英文では、主節の planted を先に捉え、目的語の内部にある donated by a local nursery を trees へ結び付ける。名詞が動作を受ける側にあることを確認すれば、過去分詞の修飾関係を保って訳せる。

4

a の解答

- 分詞句の範囲：returned by students
- 修飾先の名詞：books
- 名詞との関係：受動の関係。8 冊の本が、学生たちによって返却された。

まず、文全体の骨格を確認する。主語は the librarian、述語動詞は sorted、目的語は eight books returned by students である。ここでは、sorted eight books returned by students into separate boxes を「学生たちが返却した 8 冊の本を、別々の箱に仕分けた」と読む。

目的語の内部を見ると、名詞 books の直後に returned が続いている。return はここでは「〜を返却する」という他動詞なので、books は返却する側ではなく、返却される側にある。したがって、returned は books を後ろから修飾する過去分詞と判断できる。

returned の後ろにある by students は、本を返却した主体を表している。returned と by students は一緒に books を説明しているため、returned by students 全体を一つの分詞句として捉える。

その後の into separate boxes は、ここでは主節の sorted と結び付ける。sort A into B は「A を B に仕分ける」という意味になり、図書館員が 8 冊の本を別々の箱に分けたことを表している。

また、文頭の On Tuesday は、図書館員が本を仕分けた時を示している。returned は過去分詞だが、それ自体が過去時制を担っているわけではない。本が返却された日まで火曜日だったと決める必要はない。

なお、文脈によっては into separate boxes を returned に結び付け、「学生たちが別々の箱に返却した本」と読む余地もある。その場合は分詞句の範囲が returned by students into separate boxes となり、仕分け先の情報ではなく返却先の情報として訳すことになる。本解答では、sort A into B の読みを採用する。

(On Tuesday) , 〈the librarian〉 sorted 〈〈eight books〉 〔returned (by students)〕〉
M　S　V　O

(into 〈separate boxes〉) .
M

M “On Tuesday” / 仕分けた日 / On Tuesday は主節の sorted に結び付き、図書館員が本を仕分けた日を示す。返却された日まで火曜日だったとは断定しない。
S “the librarian” / 主節 S / 主語は本を仕分けた図書館員。
V “sorted” / 主節 V / sorted が主節の過去時制を担う述語動詞。ここでは sort O into separate boxes の構造を採用する。
O “eight books returned by students” / 主節 O / 仕分けた対象は学生たちが返却した 8 冊の本。returned by students と books の修飾関係は detail 図で示す。
M “into separate boxes” / 仕分け先 / 主解では into separate boxes を sorted に結び付け、本を別々の箱に仕分けたと読む。returned に結び付けて返却先を表す別読みも、文脈によっては可能である。

(On Tuesday), 〈the librarian〉 sorted 〈〈eight books〉 〔returned (by students)〕〉
名詞 head　過去分詞句

(into 〈separate boxes〉).

phrase “books” / 名詞 head / 主節の目的語に含まれる名詞句の中心語。8 冊の本を表す。returned で始まる分詞句の修飾先であり、返却される側にある。
phrase “returned by students” / 過去分詞句 → phrase “books” / 主解では returned by students 全体が books を後ろから修飾する。本は return という動作を受ける側にあるため、受動の関係を表す。by students は返却した主体を示す。into separate boxes を returned に結び付ける別読みでは、分詞句の範囲は returned by students into separate boxes となり、箱は返却先を示す。その場合は全文和訳でも返却先として扱う。

b の解答

直訳

火曜日に、図書館員は学生たちによって返却された 8 冊の本を別々の箱に仕分けた。

満点の訳

火曜日、図書館員は学生たちが返却した 8 冊の本を別々の箱に分けた。

直訳では、returned by students を「学生たちによって返却された」と受動の形で表し、本が返却される側にあることを明確にしている。

満点の訳では「学生たちが返却した」と自然な日本語に整えている。英文の受動の関係は保たれており、返却した主体と返却された対象も変わっていない。

どちらも、仕分けたのが図書館員であること、仕分けた本は 8 冊であること、その本を返却したのが学生たちであること、仕分けた日が火曜日であることを保持している。また、今回採用した読みでは、別々の箱は本の仕分け先である。

「仕分けた」「分類して箱に分けた」などの自然な別訳も認められる。ただし、8 冊の本をそれぞれ必ず異なる 8 個の箱に入れたとまでは断定できない。また、返却した日や仕分けの理由など、原文にない情報を追加してはいけない。

この英文では、主節の sorted と into separate boxes の関係を確認しながら、returned by students を名詞 books の説明として切り分ける。分詞に続く語句をすべて無条件に分詞句へ含めるのではなく、主節の動詞との結び付きも考えて範囲を判断することが重要だ。

©ミライコーチング

5

a の解答

- 分詞句の範囲：showing the old railway station
- 修飾先の名詞：photographs
- 名詞との関係：能動の関係。写真が古い鉄道駅を写している。

まず、文全体の骨格を確認する。主語は The editor、述語は is reviewing、目的語は photographs showing the old railway station である。ここでは、文末の at the office を主節の述語に結び付け、「編集者が事務所で写真を確認している」と読む。

目的語の内部を見ると、名詞 photographs の直後に showing が続いている。show はここでは「〜を写している、示している」という意味であり、the old railway station がその対象になっている。したがって、showing the old railway station 全体を一つの分詞句として捉える。

この分詞句は photographs を後ろから修飾している。「写真が古い鉄道駅を写している」という関係なので、photographs は show という動作・働きをする側にある。写真は無生物だが、名詞と分詞の意味関係は能動である。

ここで、主節の is reviewing と showing の違いに注意する。is reviewing は be 動詞と現在分詞による進行形で、現在の時制を担う is を含む述語である。一方、showing は名詞 photographs を説明する分詞であり、主節の述語ではない。同じ-ing 形でも、文中での働きが異なる。

また、at the office は、ここでは編集者が写真を確認している場所として扱うため、指定分詞句の範囲には含めない。ただし、文脈によって別の語句に結び付く可能性を、語順だけで一律に否定するものではない。

〈The editor〉 is reviewing 〈photographs 〔showing 〈the old railway station〉〕〉 (at 〈the office〉).
S　V　O　M

S “The editor” / 主節 S / 主語は写真を確認している編集者。
V “is reviewing” / 主節 V・進行形 / is reviewing 全体が主節の述語。is が現在時制を担い、reviewing とともに進行中の動作を表す。名詞修飾の showing とは文中の働きが異なる。
O “photographs showing the old railway station” / 主節 O / 確認している対象は古い鉄道駅を写した複数の写真。showing the old railway station による名詞修飾は detail 図で示す。
M “at the office” / 確認場所 / 主解では at the office を is reviewing に結び付け、編集者が写真を確認している場所を示す。語順だけですべての別の係り方を排除するものではない。

〈The editor〉 is reviewing 〈photographs 〔showing 〈the old railway station〉〕〉 (at 〈the office〉).
名詞 head　現在分詞句

phrase “photographs” / 名詞 head / 目的語の名詞句の中心語。showing the old railway station の修飾先であり、古い鉄道駅を写している側。無生物であっても能動の関係は成立する。
phrase “showing the old railway station” / 現在分詞句 → phrase “photographs” / 主解では showing the old railway station 全体が photographs を後ろから修飾する。写真が show という働きをする側にあるため、能動の関係を表す。the old railway station は showing の対象。showing は主節の進行形を構成する語ではない。at the office は本図の修飾範囲に含めず、主節の確認場所として扱う。

b の解答 直訳 編集者は事務所で、古い鉄道駅を写している複数の写真を確認している。

満点の訳 編集者は事務所で、古い鉄道駅が写った複数の写真を確認している。

直訳では、showing the old railway station を「古い鉄道駅を写している」と表し、写真が駅を写しているという能動の関係を明確にしている。

満点の訳では「古い鉄道駅が写った写真」と自然な日本語に整えている。英語では photographs が show の主体になっているが、日本語では「駅が写った」と表現しても、写真に写っている対象は変わらない。

どちらも、写真を確認しているのが編集者であること、写真は複数であること、写っているのが古い鉄道駅であること、確認している場所が事務所であることを保持している。また、is reviewing の進行中という意味を「確認している」に反映している。

「写真を見ている」「写真を検討している」なども、reviewing の意味を文脈に即して保っていれば自然な別訳として認められる。ただし、写真の撮影時期や、編集者が写真を確認する理由は原文から分からないため、補ってはいけない。

この英文では、主節の is reviewing を一つの述語として確定し、目的語内の showing the old railway station を photographs へ結び付ける。同じ-ing 形でも、時制を担う述語の一部か、名詞を説明する分詞かを文中の働きから判断することが重要だ。

6

a の解答

- 分詞句の範囲：watering the garden
- 修飾先の名詞：caretaker
- 名詞との関係：能動の関係。管理人が庭に水をやっている。

〈〈The caretaker〉〔watering〈the garden〉〕〉 kept 〈the back gate〉 locked
S V O C

(throughout 〈the afternoon〉).
M

S “The caretaker watering the garden” / 主節 S / 主語は庭に水をやっている管理人を表す名詞句全体。watering the garden による内部の名詞修飾は detail 図で示す。
V “kept” / 主節 V / kept が主節の過去時制を担う述語動詞。後続の目的語と補語を結び付け、裏門を施錠された状態に保ったことを表す。
O “the back gate” / 主節 O / the back gate は kept の目的語。後続の locked が表す施錠状態に保たれる対象である。
C “locked” / 目的格補語 C → O “the back gate” / locked は目的語 the back gate の状態を述べる補語。門が施錠された状態にあることを表す。名詞の後置修飾ではなく、keep＋O＋C の構造を作る。locked 自体は主節の過去時制を担わない。
M “throughout the afternoon” / 状態の継続時間 / throughout the afternoon は、裏門が施錠された状態に保たれていた時間を示す。管理人が午後中ずっと水やりを続けたことまでは表していない。

〈〈The caretaker〉〔watering〈the garden〉〕〉 kept 〈the back gate〉 locked
名詞 head　現在分詞句

(throughout 〈the afternoon〉).

phrase “caretaker” / 名詞 head / 主語の名詞句の中心語。watering the garden の修飾先であり、庭に水をやる動作の主体。
phrase “watering the garden” / 現在分詞句 → phrase “caretaker” / watering the garden 全体が caretaker を後ろから修飾する。caretaker が water という動作をする側にあるため、能動の関係を表す。the garden は水やりの対象。この分詞句は主節の述語でも補語でもない。

まず、文全体の骨格を確認する。主語は The caretaker watering the garden、述語動詞は kept である。kept の後ろには目的語 the back gate と補語 locked が続き、「管理人が裏門を施錠された状態に保った」という内容を表している。

主語の内部を見ると、名詞 caretaker の直後に watering が続いている。water はここでは「〜に水をやる」という他動詞であり、the garden がその対象になっている。そのため、watering だけで区切らず、watering the garden 全体を一つの分詞句として捉える。

この分詞句は caretaker を後ろから修飾している。「管理人が庭に水をやる」という関係なので、caretaker は water という動作をする側にある。したがって、現在分詞による能動の修飾関係と判断できる。

一方、locked は名詞 the back gate の直後にあるが、後置修飾の分詞句として扱うのではない。ここでは keep＋O＋C の構造になっており、the back gate が目的語、locked が補語である。locked は裏門が施錠された状態にあることを述べ、kept the back gate locked 全体で「裏門を施錠された状態に保った」という意味になる。

つまり、watering the garden は名詞 caretaker を説明する分詞句であり、locked は目的語 the back gate の状態を述べる補語である。どちらも分詞の形を持つが、文中での働きは異なる。語尾や名詞との位置関係だけではなく、主節の動詞 kept がどのような構造を作っているかを確認する必要がある。

また、throughout the afternoon は、ここでは裏門が施錠された状態に保たれていた時間を示している。管理人が午後の間ずっと庭に水をやり続けたとまで読み取ることはできない。

b の解答

直訳

庭に水をやっている管理人は、午後の間ずっと裏門を施錠された状態に保った。

満点の訳

庭に水をやっていた管理人は、午後の間ずっと裏門に鍵がかかった状態を保った。

直訳では、watering the garden を「庭に水をやっている」として、管理人と水やりの能動の関係を明確にしている。また、kept the back gate locked を「裏門を施錠された状態に保った」と表し、目的語と補語の関係を保持している。

満点の訳では、主節の過去時制に合わせて「水をやっていた管理人」と自然につなぎ、locked の状態を「鍵がかかった状態」と表現している。watering 自体が過去時制を示すわけではないが、英文全体の時間関係に合う日本語になっている。

どちらも、庭に水をやっているのが管理人であること、管理人が裏門を施錠された状態に保ったこと、その状態が午後の間ずっと維持されたことを保持している。

「裏門を施錠したままにした」「裏門の鍵がかかった状態を維持した」なども、施錠状態が継続したという意味を保っていれば自然な別訳として認められる。ただし、管理人自身が鍵をかけたとまでは断定できない。また、管理人が午後中ずっと水やりを続けたという情報を加えてはいけない。

この英文では、まず主節の kept と目的語・補語の関係を確認し、次に主語の内部にある watering the garden を caretaker へ結び付ける。分詞が名詞を修飾する場合と、補語として名詞の状態を述べる場合を区別すれば、誰が何をして、何がどの状態に保たれたのかを正確に訳せる。

©ミライコーチング